

ACEF

エイセフ コミュニケーション
COMMUNICATION

no. 48

The Asia Christian Education Fund
(特活) アジアキリスト教教育基金
〒169-0051

1部50円にて
おわけします。
(送料別)

東京都新宿区西早稲田 2-3-18-26
Tel. & FAX. 03-3208-1925
郵便振替 00100-0-185540
口座名 アジアキリスト教教育基金
E-mail: acef@acef.or.jp
http://www.acef.or.jp

バングラデシュに寺子屋を贈ろう

祈りと労働をもって

- 第1面
あみもねこり (巻頭言)
古賀博氏
- 第2面
BDP ニュース
活動地区データ
寺子屋ものがたり
ベビー先生とリピー先生
- 第3面
BDP スタッフ紹介
ブーパイル地区オモルさん
あみおぼてちやい
村上可奈さん
- 第4-5面
ACEF スタディツアー報告
- 第6面
ACEF セミナー講演要旨
「アジアとともに生きる」
小野道子氏
- 第7面
グローバルフェスタの様子
2015 春スタディツアーご案内
- 第8面
各地の ACEF サポーター
ニュース第二弾
日本キリスト教団函館教会
学生ボランティア団体 CHILE



あみもねこり আমি মনে করি

「分け合えば」



こが ひろし
日本キリスト教団早稲田教会牧師 / 当会評議員

「こまったなあ」と考え
こむくまくん。そうだと
気づいてとって返し、家
に残していたばんをまた
半分にして再度出発。
くまくんが急ぎゆく森
のあちこちに、ばんをさ
らに仲間とわけ合う動物
たちの姿が…。

半分にしたばんを携え、
森を抜けてのぞみちゃん
の家へ。道中、たぬきく
ん、うさぎさん、りすさん、
かえるくとばんをわけ
合い、子沢山のねずみさ
ん夫婦に残りも全部渡し
てしまいます。

「五千人の共食」(ヨハ
ネによる福音書第六章)の
奇跡。
ひとり少年の差し出
した五つのパンと二匹の
魚。数多くの人たちに備
えられていたささやかな
食物を前に、イエスさま

が祝福の祈りを捧げ、わ
け合った時、皆が満足し
たとのこと。単なる夢物
語でしょうか。
相田みつをさんの書にこ
うあります。
「うばい合えば足らぬ
わけ合えばあまる
うばい合えば憎しみ
わけ合えば安らぎ」
聖書は、わけ合う思い
が新たな現実を拓くと教
えているのでは。
財務委員の一人として、
年毎に厳しくなる財政を
見つめ、バングラデシュ
の子どもたちへと思いを
馳せています。
諦めるのではなく、小
さいものでもわけ合えば、
祈りを一人でも多くの
人とわけ合えば、聖書の奇
跡がここにも…と信じて、
活動をさらに進めたいと
願っています。

「あみもねこり」とは「私は思う」という意味のベンガル語です。

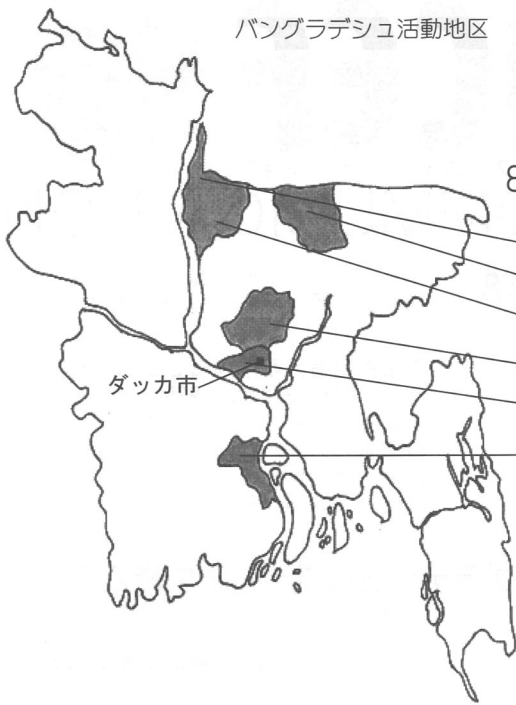
学校に通えるのが嬉しい!



ダッカ市スラム地区
ラルクティ BDP 小学校
に通う子どもたち

2014年8月

バングラデシュ活動地区



BDP News



BDP では現在 6 地区において

82 校の BDP 小学校 / 幼稚園で活動しています。

ポクシガンジ地区	12 校
ネトロコナ地区	8 校
ジャマルプール地区	20 校
プーパイル地区	10 校
ミルプール地区	4 校
ポリシャール地区	28 校

ダッカ本部スタッフ	10 名
各地区スタッフ	29 名
教師	286 名
幼稚園小学校生徒数	10,917 名
2014 年 8 月現在	



死ぬまで BDP で働き続けたい！ ベビー-বেবী 先生とリピー-লিপি 先生



ベビー先生(左)とリピー先生(右)
幼稚園から同じクラスで一緒に学び、
一緒に先生になり、結婚後も同じ学校で
先生を続けている、姉妹のようなお二人。

一九九三年、ポリシャール県イーストバグダツ村に BDP の寺子屋小学校が始まりました。ベビーさんとリピーさんは、幼なじみで一緒に BDP 幼稚園に入りました。といっても、教室はなく、先生の家の前庭にごさを敷いた青空教室でした。カンカン照りの時は、大きな木の下に移動し、雨が降ってきたら、先生の家の軒先に移動し、大変でしたがそれもまた楽しい思い出です。ベビーさんのおじいさんおばあさんはもちろん、お父さんお母さんも、学校には行ったことがありませんでした。当時、その村には学校がありませんでしたので、八人家族の中でベビーさんが初めて学校に通わせてもらったのです。

ある日、日本から大きなお姉さんやお兄さんが見学に来ました。初めて会ったときは、みんな大きな長靴を履いていて、ドシドシ近づいてきたので、とても怖かったのを覚えています。でもだんだん慣れてくると、歌を歌ってくれたり、折り紙を教えてくれたり、日本人に会うのが楽しみになってきました。BDP 寺子屋小学校は一九九四年より校舎が建ちました。が、当時は三年生までしかクラスはなくて、四年生からは政府の学校に移りました。ところが、五年生を終了したとき、女の子はもう学校に行かなくてもよいと親に言われ、大泣きをしました。リピーさんは勉強を続け

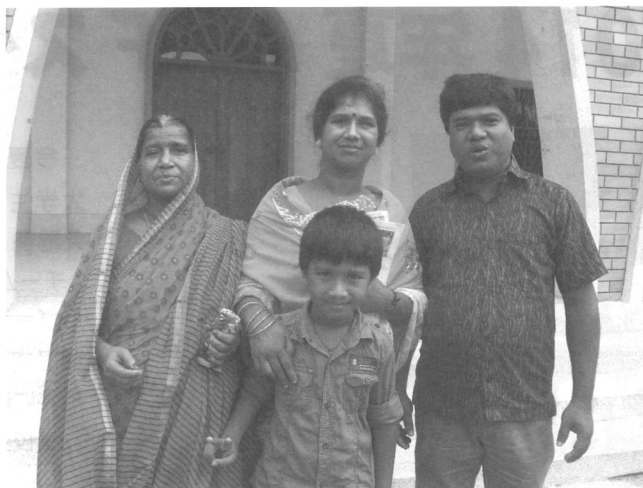
たいのに、六人兄弟姉妹全員学校に行かせるお金はないと言われれば、どうすることもできません。そんな時、BDP では先生をしながらハイスクールに通えるという話を聞きました。BDP 創始者マラカール先生の発案で、貧しい女生徒を BDP 教師として雇い、そのお給金でハイスクールに通うことができるよう、また低年齢での結婚を避けるという目的もありました。リピーさんは早速 BDP で幼稚園と一年生のクラスの先生をしながら、ハイスクールに通い、一〇年生を卒業することができました。ベビーさんも同じように BDP の先生になりハイスクールに通いました。最後の卒業試験を受けるお金がなく、一年間受けられませんでした。辛い時期でしたが BDP スタッフが優しく励まして支えてくれたおかげで、翌年やつと試験を受けることができました。

お二人ともその後、結婚されましたが、幸いにも同じ村の中の婚姻だったので、結婚後も BDP の教師を続けることができました。と言って最初の頃は、リピーさんの家では、「嫁が外で働くなんてとんでもない」とお姑さんに猛反対されました。それでも夫がよく助けてくれて、家事を早く済ませて学校に行かせてくれたそうです。リピーさんは力を込めて訴えます。「教育がなければ、良い人間は育ちません。私一人が良く生きても嬉しくない。子どもたちみんなが良く生きるのを助けられるように、先生になりたいからです。」さらに、「子どもたちと一緒にいるのが一番楽しい。」と目を輝かせます。先生になってから一七年の間には「苦労もいろいろあったことですが、困難なこととは何もないし、子どもたちのためなら、もっともっと困難なことをしたいわ。」と言い切ります。死ぬまで BDP で働き続けることが今の願いであるという、明るい笑顔のお二人にエールを送ります。



BDP スタッフ紹介

BDP プーバイル地区責任者 オモルさん



日曜日の礼拝後、カトリック教会堂の前でご家族と共に。
左からお母様、奥さま、オモルさん、二男のオルゴークン(前列)

1993年より21年間、BDPのプーバイル地区で働いて来られたオモルさんにインタビューをしました。大学を卒業後、同僚に誘われてBDPスーパーバイザーになり、7年前よりオーガナイザーとして、プーバイル地区の責任を担っておられます。

Q 家族構成を教えてください。

A 妻シブラさん、長男オヨンくん一四才、二男オルゴークン八才、母親も一緒に五人家族で住んでいます。

Q BDPの仕事に就いた動機は何ですか？

A BDPの前身であるSEEPの活動が始まってまだ間もない頃、すでにSEEPで働いていた友だちのエリックさんから、働き人を募集していることを聞きました。「人のお世話をする仕事」という説明だけでしたが、ダッカに行き、マラカール先生とファルークさんのお二人から面接を受けました。とても緊張したのを覚えています。無事採用されて、一九九三年三月から働き始めました。

Q 二年間BDPで働いて来られて、一番困難だったことは何ですか？

A 最初の頃は、子どもが学校に来られるよう、家々を回って親を説得するのが大変でした。貧しい家庭では、子どもを学校に行かせるよ

り、稼ぎ手として働かせたいと思っていたからです。せっかくBDPの学校に通い始めても、政府の学校が、米、食糧などを配布した頃、「BDPは鉛筆、ノート、ボールペンはくれても、米、食糧はもらえない。それなら子どもを学校にやりたくない。」と言われた時には、何とも切ない思いでした。

Q それでも根気よく説得されたのですよね。

A 小さな子どもが今働いて二〇タカもあって、大きくなって一日に稼げるお金はせいぜい二〇〇タカ。学校で教育を受ければ、毎日五〇〇タカは稼げるようになり、ひと月に一五〇〇タカという良い職業につけるのだよ、と説得し続けたのです。

Q BDPで一番嬉しかったことは何ですか？

A 年々子どもたちの成績が良くなってきていることです。小学校最終学年の五年生に全国一斉の政府の試験があるので、二〇〇九年から毎年BDPの生徒は全員合格

しています。

Q 今までにBDPを辞めたいと思ったことはありませんか？

A 正直に言うとう、働き始めて五年くらい経った時、BDPは給料が少ないので別の仕事に就こうと思ったことがありますが、でも辞めなくて良かったです。

Q お給料は十分ではないのに、何が続けさせているのでしょうか？

A BDPで仕事をしていいることを本当に誇りに思います。息子たちもだんだん大きくなり、二人とも技術者や医者になりたいと夢をもっています。自分の子どもだけでなく、子どもたちみんなが立派な大人に成長できるように、BDPの子どもたちのために尽くしたいと思っています。

Q 最後に、オモルさんの今の夢は何ですか？

A はい、いつか日本に行くことができたらと思っています。



あみおぼるてちゃい

「あみおぼるてちゃい」とは「私も語りたい」という意味のベンガル語です。

東洋英和女学院高等部卒

村上 可奈
むらかみ かな



バングラデシュの人を貧しい国の人、と上から目線で見るのではなく神様から与えられた命を持つ同じ人間同士として互いを知り、理解し合うことが大切なのだと思います。

今日、日本ではいじめがあったり、登校拒否があったり、さまざまな悲しい出来事が起きています。心のどこかで孤独を感じ、日々の当たり前への感謝の気持ちが薄れてきてしまっているからなのかもしれないと思います。

周りに困っている人がいたらそばに寄り添ってあげる。そうすることで心の痛みが和らぐはずですが、きつい言葉で相手を傷つけるのではなく優しい言葉で声をかけてみる。奇麗事に聞こえてしまうかもしれませんが、その小さい積み重ねによって、一人一人が優しい心でいることで、日本はあたたかくなると思います。

日本から八時間しか離れていないバングラデシュには、食べるものも飲むものもない人がいます。チョコレートや鉛の味を知らない子どもたちがいます。私達には何が出来るでしょうか。小さなことからでもいいと思うのです。バングラデシュってどんなところなんだろう、ACEFはどんな活動をしているんだろう、とまずは関心を寄せることから始めてみてはいかがでしょうか。

これからもACEFの活動を一人でも多くの人に伝えていきたいですし、これからもACEFとながっていたいと思います。

2014年夏 ACEF スタディツアー



プーバイル宿舎の前で

プーバイル宿舎の前で
も、学校に行け
もない子もい
る、そんな子
もたちのため
に、学校に行
き、高校、
希望すれば
大学にも行
けることは
恵まれてい
ることだし、
普通のこと
が普通でな
いというこ
とも改めて
考えさせら
れた。パン
グラデシ
ュの子もた
ちは学校に

行きたい！勉強
したい！とい
う強い意志があ
り、日本の子ど
もは学校に行き
たくない、勉強
したくないから
さぼるといふよ
うな子が多く日
本と比較すると
逆であり、日本
がしっかりと見
習わなければい
けないと感じ
た。学びたいけ
れど学べない子
もいて学校に行
けない子もい
る、そんな子
もたちのため
に、学校に行
き、高校、
希望すれば
大学にも行
けることは
恵まれてい
ることだし、
普通のこと
が普通でな
いというこ
とも改めて
考えさせら
れた。パン
グラデシ
ュの子もた
ちは学校に

行きたい！勉強
したい！とい
う強い意志があ
り、日本の子ど
もは学校に行き
たくない、勉強
したくないから
さぼるといふよ
うな子が多く日
本と比較すると
逆であり、日本
がしっかりと見
習わなければい
けないと感じ
た。学びたいけ
れど学べない子
もいて学校に行
けない子もい
る、そんな子
もたちのため
に、学校に行
き、高校、
希望すれば
大学にも行
けることは
恵まれてい
ることだし、
普通のこと
が普通でな
いというこ
とも改めて
考えさせら
れた。パン
グラデシ
ュの子もた
ちは学校に

行きたい！勉強
したい！とい
う強い意志があ
り、日本の子ど
もは学校に行き
たくない、勉強
したくないから
さぼるといふよ
うな子が多く日
本と比較すると
逆であり、日本
がしっかりと見
習わなければい
けないと感じ
た。学びたいけ
れど学べない子
もいて学校に行
けない子もい
る、そんな子
もたちのため
に、学校に行
き、高校、
希望すれば
大学にも行
けることは
恵まれてい
ることだし、
普通のこと
が普通でな
いというこ
とも改めて
考えさせら
れた。パン
グラデシ
ュの子もた
ちは学校に

今夏は8月6日より19日までで、高校生10名、
大学生13名、教師5名、社会人2名、事務局を加
え総勢32名の参加でした。ABCの3チームに分け、
Aチーム14名はネトロコナへ、Bチーム9名はジャマ
ルプールへ、Cチーム9名はボクシガンジへと各農村
地区で過ごし、最後の5日間はプーバイルに合流し
て共に過ごしました。

高校生、大学生の素直な感想をお届けします。

青山学院女子短期大学
一年 中村真理奈
私たち日本人は普通に
小学校に行くと、中学に
行き、高校、
希望すれば
大学にも行
けることは
恵まれてい
ることだし、
普通のこと
が普通でな
いというこ
とも改めて
考えさせら
れた。パン
グラデシ
ュの子もた
ちは学校に



ダッカ、スラムにある学校で

青山学院女子短期大学
一年 浦川実咲
待ちに待ったダッカの
空港です。駐車場に向か
い、車に荷物を載せてい
るとき、片足のない物乞
いの男の子が私の足元に
おしりともう片方の足を
使ってゆっくり近づいて
きました。そのとき私は、
衝撃のあまりとっさに
目を逸らしてしまいまし
た。自分は無力で助けて
あげることができないの
は事実です。しかし、目
を逸らしてしまっ
ていい
ものか、自分にできるこ
とは何なのか、考えても
答えに行きつかず何もで
きない自分が情けなくな
りました。楽しみにして

いたバングラデシュの一
日目で現実を目の当たり
にしました。あの子はそ
の後どうしてるのかが気
掛りです。
立教大学 四年
村 早苗
私たちが到着した夕
方、前庭が埋まる程の沢
山の子ども達と村の人々
がBDPの事務所の前に
集まっていた。私達は、
喜んでくれるに違いない
と思い、各々持参した
ビーチボールや折り紙、
シャボン玉などのモノを
取り出した。そして、求
められれば様々なモノ
を配り、Do you have a
...と何度も聞かれよ
くわからないままペンを
子どもに手渡した。その
結果、子どもたちの一部
は「風船もう無いの？」

「私には折り紙くれな
いの？」という要求しかし
なくなり、手渡したモノ
は知らない間に持ち去ら
れてしまい、力の強い男
の子たちがモノを全て独
占してしまい、何も遊ぶ
ことのできない小さな子
たちで溢れてしまった。
これらの失敗は、「モノ
があれば幸せだ」という
現代日本の価値基準をそ
のままバングラデシュに
持ち込んでしまったこと
が原因だと感じた。日本
とは違う別の幸せの概念
を持つこの国を、日本流
の価値のモノサシで荒
らしてしまっただけの軽
はずみな行動を猛省し
た。「日本人はばかりでや
しくて何でもモノをくれ
る人」という概念をバン
グラデシュの子どもたち
に植え付けてしまっ
たらどうしようと、と
ても恐ろし
くなっ
た。帰国し
た今でも大
変な心残り
となっ
てしまっ
た。
この失敗
から、私
たちのグル
ー
プは、モノ
を使わない
遊びをしよ
うと決め
た。言葉が
通じない中
で、モノ無し
で遊ぶことは
かなりの労を
要するし頭を
使うものだっ
た。そのかわ
り、ロンドン
橋やにらめっ
こ、ダンスな
ど言語やモノ
を飛び越えた
深い交流を行
うことができ
た。私たちが
これらの素朴
な遊びを通し
て、子ども達
と本当のボン
ドウ(友達)
になれたので
は、と感
じている。



農村の学校で

農村の学校で
た。言葉が
通じない中
で、モノ無し
で遊ぶことは
かなりの労を
要するし頭を
使うものだっ
た。そのかわ
り、ロンドン
橋やにらめっ
こ、ダンスな
ど言語やモノ
を飛び越えた
深い交流を行
うことができ
た。私たちが
これらの素朴
な遊びを通し
て、子ども達
と本当のボン
ドウ(友達)
になれたので
は、と感
じている。

通じない中
で、モノ無し
で遊ぶことは
かなりの労を
要するし頭を
使うものだっ
た。そのかわ
り、ロンドン
橋やにらめっ
こ、ダンスな
ど言語やモノ
を飛び越えた
深い交流を行
うことができ
た。私たちが
これらの素朴
な遊びを通し
て、子ども達
と本当のボン
ドウ(友達)
になれたので
は、と感
じている。

通じない中
で、モノ無し
で遊ぶことは
かなりの労を
要するし頭を
使うものだっ
た。そのかわ
り、ロンドン
橋やにらめっ
こ、ダンスな
ど言語やモノ
を飛び越えた
深い交流を行
うことができ
た。私たちが
これらの素朴
な遊びを通し
て、子ども達
と本当のボン
ドウ(友達)
になれたので
は、と感
じている。

通じない中
で、モノ無し
で遊ぶことは
かなりの労を
要するし頭を
使うものだっ
た。そのかわ
り、ロンドン
橋やにらめっ
こ、ダンスな
ど言語やモノ
を飛び越えた
深い交流を行
うことができ
た。私たちが
これらの素朴
な遊びを通し
て、子ども達
と本当のボン
ドウ(友達)
になれたので
は、と感
じている。

金城学院大学 二年
道越彩花
バングラデシュに行く
と決めるまで、親の反対
もあつてなかなか決断で
きませんでした。私の
考えでは、現地に行か
なければ実際に支援と
して何が不足している
のか、何が必要とされ
ているのかが分からない
のではないかと考えてい
ました。しかし、私の両
親はなぜ行く必要がある
のか、高いツアー料金を
払ってまで行くことが本
当にバングラデシュのた
めになるのか、ツアー料
金を払わずにその金額を
寄付したほうがいいので
はないかと、言われまし
た。私は、両親に反対さ
れて初めて、実際にバン
グラデシュに行くことの
意味や、バングラデシュ
にとつて私は何をしたら
いいのかというのをすこ
く考えました。初めは反
対されてすこしショック
で、なぜ自分の言ってい
ることを分かってくれな
いのかと思っ
てみて反対された理由も
徐々にわかってきて、も
ちろん外国だし日本とは
治安の安定さも全然違っ



BC両チームジャマルプールにて

こんな日程で行いました。

- 8月5日 羽田国際空港集合
- 8月6日 ダッカ国際空港到着
ブーパイルへ。近くの村を散策
- 8月7日 BDPによるオリエンテーション
ガジプール市場に買い物
- 8月8日 各チーム毎にネトロコナ、
ジャバルプール、ボクシガンジ
に分かれて出発
- 9日～12日 各地区にて、BDP 小学校訪問、
子どもたちの家訪問、
ポートトリップ、など
- 8月13日 各チーム、農村よりブーパイルに
戻る
- 8月14日 ダッカスラム地区ラルクティ
BDP 小学校訪問
ミレル市場で買い物
- 8月15日 ドミニク神父の教会訪問
バシャニエ BDP 小学校で
カルチャーショー
- 8月16日 ダッカ市内国立博物館見学
BDP のオモルさん宅訪問
- 8月17日 バドゥンカトリック教会にて礼拝
BDP 職業訓練校訪問
ウットラ「アーロン」に買い物
江間先生誕生日サプライズパーティ
ラップアップディスカッション
- 8月18日 ダッカ国際空港へ
- 8月19日 日本に帰国

ので、身の保証もない。ツアー料金を寄付せずにあえて自分が現地に行く意味はなんだろうとすく考えさせられる二週間でした。反対されないままもし参加していたら、私がバングラデシュに行く本当の意味さえも分からないまま帰国していただろうと思うと、反対して私のことを心配してくれた両親に心から感謝しています。

女子聖学院高校 一年 川嶋乃笑

少し前までバングラデシュは世界最貧国と言われていました。今でもアジアの中ではそうかもしれませんが。最初は確かに。しかしだんだんそうは思わなくなりました。逆に日本人の方が、ある面では、貧しいのはないかとも考えるようになりました。確かにバングラ



ガジプール市場にて



農村の子どもたちと縄跳び

ラデシュではすぐに停電し、お湯は出ず、トイレも水洗ではなく、日本には普通にあるものがバングラデシュにはありません。けれども、子どももBDPの小学校に通わせているお母さんが「今困っていることは無いか」と聞かれ、「子どもを学校に通わせることができて、子どもがとても嬉しそうだから無いわ」と答えるのを聞いて、ベ

できて、子どもがとても嬉しそうだから無いわ」と答えるのを聞いて、ベ

もずっともつと大事だと思えます。それがベンガルの人にはありました。

東洋英和女学院高等部 一年 森田智子

私はこのスタディツアーに参加する前は、バングラデシュの子どもたちのために私ができることは何なのか見つけてこようと考えていました。しかし実際に行ってみると、私がバングラデシュの子どもたちに何かをあたえるというよりも、それ以上に彼らから学ぶことのほうが多かったように感じています。



ニコデムさんとAチーム

また、私はこれまでACEFやBDPのお仕事は、学校を建てることだと理解していました。しかし現地へ行ってみて、バングラデシュの人々に将来への希望やチャンス

も与えているのだということを知りました。



突然の誕生日パーティ

際幸せだと感じるものが多かったのは好きな食べ物を食べたときや欲しかったものを手に入れたときなど物を得ることで感じる幸せが多く、とても衝撃を受けました。

横須賀学院高等学校 一年 宮森 海帆

バングラデシュの人の幸せと感じるときは「家族で一緒に過ごす時」と答える人が多かったのですが、私が実際幸せだと感じるものが多かったのは好きな食べ物を食べたときや欲しかったものを手に入れたときなど物を得ることで感じる幸せが多く、とても衝撃を受けました。

私は日本に帰ってきてから「物を与えられることで得る幸せは、人との関わりで得る幸せよりも幸せなのか。」と考えることが増えました。この答えはまだ見つかっていません」が、このスタディツアーで幸せに対する見方が変わりました。

青山学院女子短期大学 一年 新倉早紀

バングラデシュに二週間滞在して、人生観が変わったような気がしました。しかし、変わったような気がしているだけかもしれません。なぜならこの二週間で感じたこと、思ったこと、考えたこと、をこれからの人生

の中で生かしていかなければならないと思うからです。今の私は少しだけ視野が広がっただけ。この先、日本にいる間でどれだけバングラデシュやその他の発展途上国のことを想えるかが重要だと感じます。

恵まれていて、幸せ、豊かだ、様々なことを感じたときに相手のことをどれだけ想像することができるといえるか、世界が平和になる第一歩であるのかなとこのスタディツアーを通して感じました。

共愛学園高校 二年 石井優衣

バングラデシュに行くと、私たちはたっくさんの物に囲まれて小さいことで不満を言うて感謝することをお忘れ、人々とのコミュニケーションが減っていることを感じた。また、たっくさんの人と出会い、心配する友人ができた。その人たちに会ったときに感じていた愛を思い出して私にできることをして協力していきたい。バングラデシュに行くことができ、素晴らしい経験をさせてくれた家族、BDPスタッフ、ACEFメンバーに感謝します。

「アジアとともに生きる」 —南アジアと日本の子ども支援に携わって—

第46回 (2014年秋)
ACEFセミナー
講演要旨

2014年秋のACEFセミナーは、9月27日(土)午後1時半より5時まで、日本キリスト教会館を会場に行われました。

小野道子氏は大学1年春のACEFスタディツアー参加が、その後のJICAやユニセフでの南アジアでの教育・子ども支援、日本での東北の被災地子ども支援につながっていらっしゃる方です。パキスタンでの復興支援と東北での復興支援における共通の課題、災害時における子ども支援の重要性などをわかりやすくお話いただきました。

若い方々から年配の方々まで幅広い参加者に向け、大変興味深い良いセミナーとなりました。参加者は30名でした。



講師：小野 道子氏
おの みちこ

日本ユニセフ協会
子どもの保護アドバイザー

■ACEFに出会って
私は大学一年生の時に、東京女子大学の掲示板でACEFスタディツアーのポスターを見ました。私はその時バングラデシュがどこにあるのかも知らず、ACEFという団体も知らなかったのですが、ちょうど船戸良隆先生が大学の礼拝にいらっしゃるといふことでお話を聞き、参加することになりました。実際行ってみるとバングラデシュは私には非常に衝撃的でした。私が参加した一九九三年春というのは、農村のプーパイルにはまだ電気もなかったのです。子どもたちはもちろん裸足、リキシャを引く人たちも裸足か擦れたビーチサンダルにポロポロのシャツでした。ダツカに降り立った時には「バクシーシ(お恵みを)と目の見えない人たちや、物乞いの子どもたちがたくさん寄って来て、自分たちは何故ここ

に来たのかとか、支援って何だろう、国際協力って何だろうと考えさせられました。また、スタディツアーの中でベンガル語で劇をしたことによりベンガル語に興味を持ち、この言葉でバングラデシュ研究をしたいと思いい、帰国後二年間ベンガル語を勉強し、春休みを利用してダツカのベンガル語の学校で勉強し、大学四年の夏休みには卒論調査のため一ヶ月間滞在しました。

■JICAでの仕事
卒業後は幸運なことにJICAで社会学という職種の協力隊募集があり、バングラデシュに派遣されることになりました。ダツカ東部のコミラ県のJICAの農村開発プロジェクトに稲作、野菜、果樹、保健などの多職種の協力隊員がグループで派遣されており、私の仕事はプロジェクトが農村に与える影響調査でした。協力隊の任期を終えてから、JICAの専門家としてバングラデシュに派遣されていた女子大の先輩の紹介でJICAの専門家養成研修を受講した後、ウガンダに三ヶ月間専門家として派遣されました。その後、JICA本部を経て、パキスタンでジェンダーと

教育分野の企画調査員として二年間勤務しました。JICAは様々な分野のプロジェクトを行う援助の総合百貨店です。教育分野の仕事も基礎教育から高等教育まで多岐にわたります。私は教育を受けられない子どもたちの支援に特化したいという思いで、子ども支援

急」という言葉が入って、紛争や災害時の緊急支援で国連機関の中でも主要な役割を果たしています。カトマンズでは、子どもの保護官として南アジア八か国の支援にあたりましたが、その後、パキスタンの国連事務所に異動しました。バングラデシュはパキスタ

のタリバンと政府軍との戦い激化、二〇一〇年には全土での洪水と毎年のように緊急支援事業に追われました。緊急時には、キャンプなどの避難先でも子どもたちが遊んだり学習できる場がとて大切になります。緊急時にはまずそのような子どもたちが日常に戻って行くのに必要な「居場所づくり」に取り組みます。二〇一〇年一二月までパキスタンにいて二〇一一年一月に日本に帰国しましたが、三月に東日本大震災が起きたので、ユニセフの日本の子ども支援に加わることになりました。

■東日本での子ども支援事業
大震災による子どもの被害状況を見てみますと、二四一名の子どもの孤児に、一五〇名以上の子どもが遺児となっています。親族里親は高齢の祖父母が多かったり、遺児家庭の半分弱は、これまで育児を中心的に担ってこなかった父子家庭であったり、子ども支援の課題は大きいです。被災地ではDVや虐待、不登校も増えており、仮設住宅や間借り校での生活も続きます。阪神淡路大震災でも心のケアは震災三年後から新たな課題が出てきました。震災後すぐはパキスタンのように避難所で子どもたちの「居場所づくり」が行われましたが、震災三年半を経て新たな災害に備える日本版ガイドブックの作成や研修事業も行っていきます。



ACEFセミナーの様子、日本キリスト教会館にて

ユニセフのパキスタンでの活動
二〇〇四年からカトマンズにあるユニセフの南アジア地域事務所に所属しました。ユニセフは国際連合児童基金という名称ですが、英語の正式名称には「緊急

ンから独立した国です。言や文化もよく似ているのですが、パキスタンは国土が広く民族も多様で言葉も様々で国語のウルドゥ語を母語とする人は七%しかいません。二〇〇五年のカシミアル地震、二〇〇七年のパロチスタンで洪水や二〇〇八年のパロチスタン地震、二〇〇九年以降

は震災三年後から新たな課題が出てきました。震災後すぐはパキスタンのように避難所で子どもたちの「居場所づくり」が行われましたが、震災三年半を経て新たな災害に備える日本版ガイドブックの作成や研修事業も行っていきます。

ユニセフでは、「被災前よりもより良い状態になること(Build Back Better)」を目指し、今までなかった社会サービスだからやらないではなく、今までなかったものこそやらなければならない、と考えています。ユニセフは子どもの権利条約の四つの権利：①生存、②教育・遊び、③参加、④暴力からの保護に基づいて活動をしています。日本には子育て支援の団体は多いですが、子ども支援の団体は少ないです。親を対象にした里親支援、ひとり親支援、ひとり親家庭支援と呼んで、親も子ども同時に支援していきたいと考えています。子どもの内なる力を信じて、子どもたちが自身に付

ライフスキルを身に付け、子どもや地域の回復力(レジリエンス)を高めていく、子どもたちの持っているものを引き出していくような活動が大切だと思っています。

グローバルフェスタ JAPANに ACEF は今年も参加しました。

2014年10月4日(土)～5日(日)



高校生は、可愛い笑顔で、チャナチュールの売り歩きに活躍してくださいました。

「グローバルフェスタ JAPAN2014」は、広く国民を対象に、楽しく分かりやすい行事を通じて紹介する日本最大級の国際協力イベントです。今年には「国際協力60周年」の記念の年で、若い世代からシニア層まで幅広い方々へ国際協力をより身近なものに感じてもらうと共に、ODAを含む国際協力の現状や必要性、政府とNGOの協力などについての理解と認識を深めてもらいながら、国際協力の参加を促進することを目的として開催されました。

主催はグローバルフェスタ JAPAN2014 実行委員会、共催は外務省、独立行政法人国際協力機構(JICA)、(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)です。

来場予定者は10万人でしたが、あいにくの台風18号接近にともない、二日目は残念ながら正午をもって終了となり、来場者は77,546人でした。



飲食ブースで、チャナー(ベンガルミルクティ)とチャナチュール(ベンガルスナック)を販売しました。



ワークショップテントで、今夏スタディツアー報告をいたしました。映像を見ながら、学校訪問、食事、服装などの楽しい報告でした。

感じます。

フェスタでの活動では、たくさんの方々と交流ができます。お客さんにパングラデッシュやACEFのことをお話ししたり、パングラデッシュ出身の方や行ったことがあるという方と語ったり。お隣の団体とお互いのものを交換で買って活動を紹介し合うなんてことは、フェスタならではのかなと思っています。そして、フェスタに集まってきたACEFの仲間との出会いもたくさんあります。スタディツアーに参加した仲間との久しぶりの再会もあれば、初めて会った人との話りもありです。普段は全く違うところで過ごす私たちですが、ACEFやパングラデッシュへの思いは変わらないと感じます。

私は、ほぼ毎年グローバルフェスタでの活動に参加しています。スタディツアーに参加した年からのので、もう十数年経つでしょうか(早いー)。最初のころは朝早くからカレー作りもしていましたが、最近は当日の販売担当のみがほとんどです。

国立国際医療研究センター看護師 石井祥子



展示ブースで、パングラデッシュ手工芸品を販売、また、スタディツアー報告、紙芝居なども行いました。

第48回2015春ACEFスタディツアーのご案内

- 日時：2014年3月3日(火)～13日(金)予定
- 参加資格：・当会会員であり、今年度会費納入済みであること。
(会員でない方は入会してから申し込んでください)
 - ・今後とも引き続きACEF運動に積極的に参加して下さる方。
 - ・健康に自信のある方。
 - ・キリスト者に限定しませんが、毎日、朝、夕に礼拝をします。
- ACEFセミナー：年二回(春と秋)開催しています。スタディツアー参加者にご参加いただきACEF運動への理解を深めてくださるようお願いいたします。特に2015年春のセミナーでは、このスタディツアーの報告会も行いますので是非ご出席ください。
- 準備会：2月7日(土)～8日(日)(一泊)
(東京都内にて開催の予定)
- 申込方法：会員でない方は、ACEFに会費をお振込みください。
(個人会員1口5,000円/学生会員1口2,000円)
〒振替口座 00100-0-185540 アジアキリスト教教育基金
「私はなぜ参加したいのか」を原稿用紙1～2枚にまとめて、申込書と共に送付してください。
- ※会費納入が確認され、申込書と作文が到着した時点で申込受付とします。
- 送付先：〒660-0084 尼崎市武庫川町4-27-1 榊マイチケット
担当：岩井洋文 FAX：06-4869-5777 e-mail:iwai@myticket.jp
- ※申込用紙はACEFにお申し出ください。
- またはACEFウェブサイト(<http://www.acef.or.jp>)からも印刷できます。

スタディツアー詳細は、各スタディツアー報告書(1冊200円)をご参考にしてください。ACEF事務局でお求めになれます。



もし、アマゾンでお買い物をしていましたら、ぜひ、ACEFのウェブサイトのトップページにあるamazon.co.jpのバナーをクリックしてください。

一理事会報告

- 長い間お待ちいただきました「認定NPO法人取得」も、おかげさまで、あと一歩となりました。取得後は、みなさまからのご献金、ご寄付に対して、減税の措置が与えられます。詳細は取得後お手紙でお知らせいたします。
- BDPではACEFの寄付を歓迎して大いに活用して下さっています。その資金需要が活発で、ACEFからの送金が不足がちです。どうかBDPのニーズに応えられるよう、みなさまからの温かいご支援をさらに、よろしくお願い申し上げます。

各地の ACEF サポーターニュースいろいろ (第二弾)



ポリシャル県ダンドバBDP小学校開校式にて CHILEメンバー 2014年

＊名古屋より～

学生ボランティア団体 CHILE

田草川梨乃 たくさがわ りの



学生ボランティア団体 CHILE は愛知県内の大学生約六〇人でバンングラデシュに小学校建設という形で教育支援と学生間にチャリティームーブメントを起こすという二つの理念のもと活動している団体です。

CHILE は ACEF を通じて BDP スクールの校舎の建て替えを行って来ました。今までポリシャル地区にある三校の小学校をレンガ校舎に建て替えました。

四校目はボクシガンジ地区の小学校をレンガ校舎に建て替える予定です。

建て替えの資金は年に二回チャリティーイベントを開催したり、毎週土日に募金活動をして資金を集めています！

さらに毎年夏に CHILE が建て替えた小学校を実際に見に行くスタディーツアーを行っています！

いつもは CHILE だけでなく ACEF のスタディーツアーのあと一週間バンングラに行くのですが、今年には CHILE メンバーの一部は ACEF のスタディーツアーに参加しました！

ACEF のスタディーツアーでしか味わえない貴重な経験がたくさんできました。ありがとうございました！

私たち、CHILE のメンバーはただの大学生です。しかし、ACEF や BDP の協力のおかげでこうして国際協力ができています。大学生にしかできないボランティアができていくことに感謝しています。

私たちの活動がバンングラデシュの子ども達の笑顔と彼らの未来に少しでも関わっているということを誇りにこれからも CHILE としての活動を頑張っていきたいと思えます。

＊函館より～

日本キリスト教団函館教会

松本美香子 まつもと みかこ



函館では、来る十一月九日、この夏スタディーツアーに参加された遺愛学院の江間先生をお迎えして、バンングラデシュ、BDP、ACEF についてお話を伺う会を持つ予定です。このときにはバザーも行い、市内の新聞にもアピールします。

目的は、ACEF 運動を広くお知らせすることですが、もう一つの目的は、ACEF を支援して下さっておられる方々とお交わりを深めること

とにあります。北海教区年頭修養会でバザーを行っていますと「わたしも ACEF の会員です」「スタディーツアーに参加しました」と声をかけてくださる方々が道内各地におられました。また、「函館友の会」では長年にわたって ACEF を支援してくださっています。

そのような方々とのお交わりの中で勉強会なども持つことができました、次世代の ACEF を担っ

てくださる方々も導かれていけないかと思っています。

三年前アルバートさん来函のおりには、訪問した幼稚園に世界地図が貼ってありバンングラデシュが指し示してありました。この子どもたちも BDP で育った子どもたちもともに、お互いを理解し、助け、愛し合っている人となって世界に羽ばたいて行くでしょう。その時を待ち望みつつこの運動を上げたいと思います。



Albert さんを囲んで函館教会での集まり 2012年

教育はすべての協力の基です。会員としてご協力ください。



個人会員	年額1口	5,000円
団体会員	年額1口	50,000円
学生会員	年額1口	2,000円
一時寄付	随時	金額自由

郵便振替 00100-0-185540
アジアキリスト教教育基金

メモリアル献金—故人を偲んで (ACEF のため)

- 故大塚富吉牧師・リツ牧師を記念して
日本キリスト教団使徒教会より 50,000円 (2014年1月)
- 故大塚富吉牧師・リツ牧師を記念して小倉義明様より 30,000円 (2014年1月)
- Dr. Malakar 召天10周年を記念して井上儀子様より 10,000円 (2014年7月)
- 隅谷三喜男召天10周年を記念して
隅谷三喜男記念講演会実行委員会より 297,294円 (2014年8月)
- 故大崎一男・浪江様を記念して小倉義明様より 30,000円 (2014年9月)
- 故大崎一男・浪江様を記念して東三元様より 10,000円 (2014年10月)

ご逝去に限らず、このメモリアル献金が、いろいろな場面の記念感謝献金として、定着すればと願っています。

編集後記

来年は ACEF 創立二五周年を迎えます。記念募金と記念プログラムを、理事会で目下計画中です。ACEF に連なるみなさまが、共にこの二五年間を感謝し、新たな年も BDP と共に歩むことができると願っています。さらなるご協力ご支援をよろしくお願い申し上げます。

紙面へのご意見ご感想をお待ちしています。

発行責任者(理事長) 小倉 義明

編集責任者(広報委員長) 山神 清和

印刷所 株式会社 文栄